

「新聞を読んで考えよう」
- 新聞をどのように読むか -

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴き頂きありがとうございます。先週の土曜日、15 日から「新聞週間」でした。これは、「新聞を読もう・新聞を読んで考えよう」というものです。私も、「NIE (NewsPaper In Education) 新聞を教育に」活動を行っている NIE 学会に入り、新聞を読んでそれをどのように教育に役立てようかという勉強をさせて頂いています。そこで今日は、「新聞を読んで考えよう」についてのお話をさせて頂きます。

私は時々外国に行かせて頂きますが、そこで日本と外国の新聞事情を比べ、日本の国民は本当に幸せだと思います。日本では、各家庭に毎朝確実に新聞が届けられます。雨の日も風の日も雪の日も嵐の日も、新聞配達店の皆様のご努力により確実に届けられています。他の国では、大きなホテルや会社などには届けられているかもしれませんが、毎朝きちんと各家庭に新聞が届く国は珍しいと思います。ですから、外国に行った時は新聞を買うのが大変で、News Stand に行ったりしています。それほど新聞を手に入れるのは難しいです。それが日本では、配達店の皆様のおかげで、新聞が毎朝届くのですからありがたいですね。

また、夕刊がある国は少ないですね。日本のように朝刊と夕刊で 1 日 2 回も新聞を配達している国はめったにありません。ですから、新聞に関しては日本は世界でも珍しい国です。

それに、読売新聞は 1000 万部、そのほかのいろいろな新聞も 100 万部単位の部数で刊行されていますが、このように 100 万部単位で 1 つの新聞が発行されているのも珍しいです。もしかしたら、新聞の発行部数では日本が世界一かもしれません。だからといって中身がないわけではなく、日本の新聞ほど難しい内容を易しく丁寧に報道している新聞は他には滅多に見られません。タブロイド版の新聞は、くだけた内容が多くなってしまいます。それに対して、日本の新聞は堅い内容を易しくわかりやすく報道しています。100 万部単位で発行されている新聞は、ごく一部のよく勉強をしている人しか読まないといわれる国では言われていますが、日本ではほとんどの人が読んでいます。日本の新聞はレベルが高い、クオリティー・質が高いと私は思います。これも 1 つの特色です。

また、言論の自由の有無に関して言えば、日本の新聞には言論の自由があると思います。政府が新

聞社に介入して記事を書かせないということや、政府に都合の悪い記事を書いた人を逮捕したり、拉致して失踪させてしまうということは、他の国ではありましたが、日本にはまったくありません。日本は言論の自由が非常に保障されています。このような点から見ても、日本の新聞は世界で一番よいと思います。ですから、皆さんにお願いしたいのは、日本にはこのように素晴らしい新聞文化があるのですから、是非読んで頂きたいということです。新聞には、世界の最先端のことから、地元栃木県のこと、市長のことまで丁寧に書いてあります。

では、「どのように読むか」です。高校生ぐらいまではテレビ欄しか見ない方が多いようですが、小学生は1日20分、中学生は1日40分、高校生は1日1時間以上新聞を読んで、世の中のことを考えてほしいのです。新聞には、世界の出来事、日本の出来事、県・市町村の出来事がわかりやすい表現で丁寧に書かれています。ですから、大学生はもちろん新聞をきちんと読まなければいけません。大学生の中にはインターネットで新聞を読む人がいますが、それらの情報は限られたものです。しかし、新聞には、世界のこと、日本のこと、地元のこと、文化のこと、健康のこと等、さまざまなことが書かれていて、インターネットよりも遙かに多い情報が網羅されています。高校生が1時間以上ですから、大学生にはもっと長く読んでほしいです。また、この放送をお聴きの社会人の方の中に新聞を毎日読んでいない方がいらっしゃいましたら、これを機会に新聞をじっくり一面から読んで頂きたいと思います。世界のこと、世の中のこと、日本のこと、栃木県のこと、地元のこと、健康のこと、経済のことだけでなく、生き方について、文化とは何かについて、美味しい梅干しの食べ方などについても書かれていますので、隅から隅まで読み、自分の人生を豊かにして頂きたいと思います。

今日は、「新聞を読んで考えよう」ということをお話させて頂きました。是非、新聞を毎日読んで、いろいろなことを考えて頂ければと思います。